

# 令和4年度 成瀬ダム建設事業マネジメント委員会

## 議 事 録

日 時：令和4年8月5日（金）

15：20～17：00

場 所：成瀬ダム工事事務所

1階 大会議室

### （1）令和3年度事業実施状況

- ・令和3年度の事業実施状況を説明。

#### ●沼倉委員

- ・工事が最盛期を迎え、国道342号での工事関係車両の往来が非常に多くなってきているので、一般の方々の通行にも留意し、安全面には十分に注意していただきたい。

### （2）令和4年度事業計画

- ・令和4年度の事業計画を説明。

#### ●柿崎委員

- ・原石山採取工事の進捗が7割ほどで、残り3割ぐらいになってきたが、今後の見通しは如何。

#### ●事務局

- ・原石山採取は、ベンチカット工法で、下の方に順次掘削を進めている状況。下に下がるほどより良質な岩盤が出てくるので、現時点では、計画どおりに原石採取が進むと見込んでいる。

#### ●松富委員長

- ・令和4年度の予定工事に未契約工事があるが、施工者は決まっているという解釈でよいか。

#### ●事務局

- ・本体関係の「第2期工事」については、当初発注の際、継続工事の随意契約を予定している旨、条件明示し契約しているので、施工者は確定している。それ以外の工事については未定。

#### ●沼倉委員

・昨今のウクライナ等の社会経済情勢や為替の問題で、非常に不確定要素が大きくなってきている中、事業が当初の予定どおりに進まない可能性もあるので、そのような社会経済情勢を適正に考慮して事業を進めていただきたい。

#### ●事務局

・社会経済情勢の変化や単価の高騰も踏まえて、事業が停滞することのないよう、随時状況を確認しながら進めていく。

### (3) 事業監理

- ・コスト・工程管理等、事業マネジメント体制の強化を図ることを目的とした「成瀬ダムコスト縮減推進室」を設置し、「成瀬ダムコスト縮減に関する行動指針」に基づき、品質と安全に関わる項目を除いては、聖域を設けずに点検を実施する等のコスト縮減の取り組み状況を説明。
- ・コスト縮減の検討結果、新たに適用可能となったコスト縮減内容と今後の検討内容を説明。
- ・令和3年9月の基本計画変更（第3回）以降、新たな環境保全対策や品質確保対策等の追加によるコスト増が発生している状況を説明。
- ・また、ウクライナ危機に端を発する燃料、資材等のさらなる価格高騰が顕在化し、特にセメントは、石炭価格の異常な上昇により、今後、相当額の増額は避けられない見通しを説明。
- ・工事安全管理および新型コロナウイルス感染対策等の内容を説明。

#### ●櫻井委員

・コスト縮減に関して、まずは安全性と品質の確保を最優先した上で、コスト縮減できる場所があれば、工夫しながら行っていただきたい。

・また、非常に重要な構造物であり、完成後は長期にわたり維持管理していくことになるので、安全性を長期にわたってしっかり確認できるような施設にして欲しい。例えば基礎岩盤のスケッチなども、後々の管理段階でトラブルが出た時には非常に重要な情報になるので、必要な情報はしっかり残し、安全で適切な維持管理ができるよう、使いやすい施設を目指していただきたい。

・コスト縮減のアイデアについて、他ダムの事例で、設計者・施工者・発注者の3者で協議しながら見解を出すような取り組みをしているところもあるので参考にしたい。

・放流設備を据え付ける時の調整なども、機械メーカー・堤体JV・発注者で調整し、なるべく工程を短縮して設置していくようなやり方もある。

#### ●事務局

・様々なコスト縮減の工夫によって工期を短縮することもできるし、例えば、設計者、施工者、発注者の3者会議などの場で知恵を出し合うことで、様々な面でメリットが出てくるので、そう

したことも含めて取り組んでいる。発注者だけではなかなか知恵が出てこない部分があるので、積極的に民間技術も取り入れていきたい。

- ・その他、コスト縮減だけでなくDXや働き方改革なども含めて、メリットのある部分は、率先して取り組んでいく。

#### ●茂内委員

- ・現時点のコスト縮減額が約20億円ということで、その努力に敬意を表する。
- ・最近、様々な分野で新技術がでてきており、今後もこうしたコスト縮減のよい取り組みを進めていただきたい。
- ・環境に配慮する部分で、原石山やプラント跡地は最終的にどうなるのか。また、残土の仮置場についてもどのようなようになるのか。

#### ●事務局

- ・下流側の残土受け入れ地は東成瀬村の土地であるため、最終的な形は村との調整になる。これまでも村との調整は続けてきたが、意向を踏まえてレイアウト（案）を提示しつつ、関係者と膝詰めで調整していく予定。
- ・環境配慮については、山肌が出ている部分は緑化し、緑に返していく方針。ダムは観光資源になり地域振興にも寄与するので、皆様から親しまれ、喜んでもらえるダムになるよう、関係者一体となって調整を進めていく。

#### ●藤嶋副主幹（代理）

- ・改めて成瀬ダムは雄物川流域の社会経済を支える重要なインフラという認識をした。今後の事業執行においては、不透明な社会経済情勢のなか、確実な工事進捗の確保に努めていただきたい。

#### ●小南委員

- ・数日前の大雨により山形県や岩手県、秋田県県北の方が大きな洪水被害に遭った。幸い当地区はあまり影響を受けなかったが、やはりダムがあると洪水調整機能が大きく働くので安心感がある。当初予定より2年完成が遅れることを昨年度伺ったが、災害等が起きる前に、順調に完成して欲しい。
- ・資材単価等の高騰は、できれば触れたくないことだが、実際に建設行政に携わる者として、今後の単価、物価スライドがどうなっていくのか不安を感じている。その際に、また上がることはやむを得ないが、なるべくオープンにその内容を示し、地域の方々に理解していただきながら進めたいと思っている。ダム事業も同様に取り組んでいただきたい。

#### ●事務局

- ・昨年の委員会でも早期完成を望む意見をいただいた。安全な施工が第一ではあるが、工程監理も重要と認識しており、発注者だけでなく事業に関係する方々が一体となって知恵を出しながら、工期厳守・早期完成に向けて進めていきたい。

●柿崎委員

・秋田県の埋蔵文化財発掘調査結果による見直しについて、一部発掘調査が不要になったとのことで、大きな金額の削減になっているのは何故か。

●事務局

・埋蔵文化財については、発掘調査の前に県が確認調査を実施している。その中で、特に重要なものは発見されなかったことから、本調査は不要という判断をいただいた結果、削減された。

●舩谷委員

・大仙市も平成 29 年の豪雨により、雄物川、それから支流の河川の氾濫があり、甚大な被害を受けた。その後、国土交通省、それから秋田県の迅速な対応により、築堤工事、河川改修工事等が進められ、今年度にはその工事が完成するところ。今回成瀬ダムの方にも、放流ゲートが新たに設けられるということで、新たな設備と築堤工事、そうした相乗効果により流域住民の安心安全が図られるものと期待している。

・コスト縮減推進室などを立ち上げ、色々と努力されているということで、今後も事業費増につながらないように、取り組みを継続していただきたい。

●松富委員長

・コスト縮減の 20 億円だが、分母はどのくらいか。今回の 20 億円の縮減は、5 パーセント目標に対して、どのくらいのパーセンテージになるのか。

・もう一つ濁水処理の件で、当初の段階から 2 か所だけではなく、もっとあったように記憶しているが、時間経過の関係がよくわからない。

●事務局

・事業費の 5 パーセントというのは、全体事業費の 2230 億円を分母と捉えていただきたい。

まだ不確実性の残る濁水処理や品質確保のための増額リスクについては、金額を精査中であり、確定的な金額は言えないが、全体事業費に対してコスト縮減だけを捉えれば、そのパーセンテージは 2230 分の 20、約 1 パーセントというオーダーになる。

・2 点目の濁水処理については、事業費を積み上げた令和 2 年度時点では、機械処理脱水方式で当初設計に盛り込んでいたのが 2 か所、それ以外の原石山等については自然沈殿池を配置した。しかし、工事が本格化し濁水に関する苦情がかなりの頻度で入るようになったため、全体の配置計画を見直し、自然沈殿池方式から機械処理脱水方式に能力の増強を図った。

以上

午後 5 時 00 分 閉 会